

熱帯医学・グローバルヘルス研究科博士前期課程 グローバルヘルス専攻  
 研究指導計画

研究指導方針・体制・方法	<p>学生は演習科目を受講する形で、主任・副指導教員から研究指導を受ける。</p> <p>主任・副指導教員の選定については研究科 HP，入学後に実施される各教員の研究に関する説明会を参考に、学生が指導を希望する教員に相談の上、個別面談を行い当該学生の研究指導を担当すること及び研究課題等の内定を得る。選考過程において、必要に応じてコース長等と相談を行い、教授会で承認・決定する。</p> <p>教授会で主任・副指導教員が決定された後、学生は「修士論文に関する研究スケジュール」を主任・副指導教員と相談のうえ策定し、12月下旬までに担当事務に提出する。その後は、当該スケジュールに沿って、研究指導を受けつつ、進級時等の研究発表会及び倫理審査委員会等の前に研究プロポーザルを、研究完了と共に修士論文を作成する。研究の途中で、主任又は副指導教員を変更する場合には、「指導教員変更届」を研究科事務室へ提出し、教授会の了承を持って変更する。</p>
研究目的・到達目標	<p>グローバルヘルスに関する現在の課題について、適切な説明ができる。研究テーマに関連した分野の学問的背景を理解し、現状分析、先行文献レビューができる。分析結果、先行文献レビューを基に研究プロポーザルを作成し、発表、倫理審査許可を得ることができる。さらに、熱帯医学コースにおいては、修士論文を作成し、提出、学位審査を受けることができる。</p>
研究指導内容	<p>研究テーマに照らして、グローバルヘルス分野の健康課題に対し解決策を導く研究を指導する。そこで、研究テーマについての先行研究の探索に加えて、参考文献、参考資料、データなどのフィールドワークを含む研究指導を行なう。</p>
年間研究指導計画	<p>グローバルヘルスに関する現在の課題について検討、討議を行う。以下のとおり、修士論文の研究テーマに関連した分野の文献収集・調査方法の指導、研究の進捗状況・成果に対する質疑応答及び修士論文又は特定課題研究報告書のプロポーザル作成指導を行い、実際の修士研究をとおして修士論文の作成指導を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①学生のバックグラウンドや修了後に就労を希望する仕事の内容に合わせた研究テーマを協議し、研究テーマに応じた研究計画の立案を指導するとともに、必要に応じて教員は、チュートリアル計画を立案する。</li> <li>②授業や実習を補完するような課題文献を指定し、それを読みディスカッションのうえレポートにまとめるなどのアドバイスと指導を行う。</li> <li>③修士論文又は特定課題研究報告書作成に必要な情報やデータの収集を指導する。</li> <li>④修士論文又は特定課題研究報告書発表会（中間発表会）での発表に対する準備を指導する。</li> <li>⑤研究プロポーザルの作成を指導する。</li> <li>⑥修士論文又は特定課題研究報告書作成に必要な情報やデータの収集を指導する。</li> <li>⑦修士論文又は特定課題研究報告書発表会での発表に対する準備を指導する。</li> <li>⑧修士論文又は特定課題研究報告書の作成を指導する。</li> </ol>

<p>学位論文の指導体制・作成プロセス</p>	<p>第1学年の演習科目において主任指導教員・副指導教員からの研究プロポーザルに対する指導を受けながら、研究テーマの調査を行なう。国際健康開発コースについては第2学年の必修科目「長期海外研修」においてフィールドワークを中心とした調査研究を実施し、同年開講の演習科目「グローバルヘルス演習Ⅱ」での指導に沿って、修士論文を作成しつつ、必要に応じて倫理審査を受審する。</p>
<p>学位論文審査体制・審査方法・評価基準</p>	<p>主査1人、副査2人を選任して審査に当たる。主査、副査1は予備審査として提出された修士論文を読み、スコアリングを行う。その後の口頭発表会及び質疑応答により最終試験を行い、予備審査会で作成された合否判定案に基づいて、教授会が最終決定を行う。</p>
<p>最終試験の評価方法・評価基準</p>	<p>最終試験は、審査委員3人が論文を中心として、これに関連ある項目について、口頭または筆答により行なう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・研究内容について十分に理解し、提起される論点について論理的に説明ができること。</li> <li>・当該研究分野に関する専門的な知識を有すること。</li> </ul>